

糖尿病患者特有の 「痛みの現れ方」

たんでい
胆泥の蓄積で腹膜炎を起こしかけたWさんのケース

担当医



久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医
医療法人財団百葉の会 銀座医院
院長補佐・抗加齢センター長

患者氏名	W・H様	年齢	67歳	性別	男性	現病歴	糖尿病 逆流性胃腸炎 胆石 狭心症
------	------	----	-----	----	----	-----	-------------------

20年以上飲み薬で血糖コントロールをされているWさん。数か月前、前胸部痛とみぞおち痛を訴えて私のところで精密検査を受けられました。

もともと狭心症の既往症をお持ちでしたので、心臓の検査を行いました。逆流性胃腸炎の持病もあったことから、消化器系ではないかと考え、その日は胃腸のお薬を処方してお帰りいただきました。ところがその後、「また、痛む」と再び受診されたので、腹部エコー検査で調べてみたところ、

たんのう
胆嚢に胆泥が認められたのです。

胆泥とは、胆嚢結石になる前のまさに「泥のような」状態のもので、それが胆嚢の入り口に詰まると、炎症を起こしてしまいます。

Wさんの場合、炎症がかなり進んでいたため、内視鏡を用いた緊急手術となりました。もう少し判断が遅ければ、腹膜炎を引き起こしていたかもしれません。

なぜ、Wさんの症状は、ここまで悪化してしまったのでしょうか。それは、糖尿病の患者さん特有の「痛みの現れ方」

にありました。

じつはWさんは4、5年前にも同じような痛みを訴えていましたが、不確定要素の多い痛みだったため、はっきりとした診断ができなかったのです。

たとえば心筋梗塞であれば、普通の人は心臓が締めつけられるような激痛が起きますが、糖尿病の人は違った痛みの出方をすることがあります。不安な痛みには、くれぐれも慎重に対処していただきたいものです。

